

学研映画

同和問題啓発用アニメーション

きずな

にんげんの詩^{うた}パート2

●カラー / 30分

16ミリ ¥180,000 No195025

VHS ¥47,000 No1496120

- 企画 / 財団法人 東京都同和事業促進協会
- 協力 / 東京都・東京都教育委員会
- 製作 / 学研映画

※表示価格は、消費税抜きの価格です。

製作の意図

江戸時代に確立された身分制度による部落差別は、間もなく21世紀を迎えようという現代もなお、社会的事実として残っています。

この作品は、部落差別の典型的な例である結婚差別をとりあげ、部落差別がいかに不当なものである

か、また、どうしたらこの問題を解決することができるかを考えようとするものです。

(なお、この作品は、アニメーション「にんげんの詩」の続編として、主人公ミツコの結婚後を描くという構成になっています。)

この作品の内容

- 鐘の音が響くとともに、ウェディングドレスに身を包んだミツコが、マサオと腕を組んで進んでくる。二人は大学時代に知り合い、卒業後も交際を深め、ついに結婚式を迎えたのだった。二人を祝福する拍手が響きわたる披露宴会場……しかし、そこにはミツコの両親の姿はなかった。
- ミツコの両親は、マサオが被差別部落出身者であることを理由に、結婚式を最後まで認めなかった。懸命に説得を続けたミツコだったが、努力も実らず、ついに両親の反対を押し切って結婚式に臨んだのであった。
- 結婚して間もなく、ミツコはマサオの実家を訪ねる。そこでミツコは、歓迎してくれるマサオの家族の姿を見ているうちに、急に胸が一杯になってしまう。「実家のことを考えたら、つい……」と涙ぐむミツコに、マサオの母親は、「苦しいことや悲しいことがあれば、必ず私たちにも相談してちょうだいね」と声をかける。
- 東京郊外にある団地に住まいを構え、新生活を続ける二人だったが、ミツコの両親との関係は依然として途絶えたままだった。
しかし、そんな二人に、素晴らしい贈り物、待望の赤ちゃん(アキオ)が生まれる。
そして、アキオのお食い初めの祝いのために、みんなが集まっていたある日のこと、突然ミツコの母親が訪ねて来る。自分の初孫が生まれたと聞

いて、たまらずやって来たのだった。そして数ヶ月後、ついに父親も辛抱しきれずにミツコの家を訪ね、ミツコとマサオに今までのことを反省するのだった。

- こうして、ただひとつの心がかりもなくなったミツコは、幸せな日々を過ごす。しかし、その幸せも、思わぬ出来事のため突然途絶えてしまう。マサオが交通事故に遭い、二度と帰らない人となってしまったのだった。

悪夢のようなマサオの死から数ヶ月が過ぎたある日のこと、ミツコは実家の父親に呼ばれる。父親は、「お前とアキオの籍をこっちへ移して、家に帰って来ないか」と、マサオの家と縁を切るよう勧める。今もマサオを愛するミツコはショックを受けるが、一方で、アキオのためになることならと心の奥底で考え始める。悩みに悩んだミツコは、マサオの両親に相談することを思いつく。

- マサオの母親は、「差別から目をそらせて、ごまかして逃げ回っていたら、ろくな結果にならない」と、部落に生まれ、差別に苦しんだ自らの体験談をミツコに聞かせる。マサオの母親の話聞いたミツコは、これから自分の進むべき道を確認する。ミツコは、「こそこそ隠し事をして生きるより、正々堂々と真つすぐ進むほうが、アキオのためになる」と、マサオの両親の住む町で暮すことを決心するのだった。

《関連作品》にんげんの詩 ●カラー/26分 16ミリ/¥180,000・VHS/¥47,000

《企画》財団法人 東京都同和事業促進協会
《協力》東京都・東京都教育委員会
《製作》学研映画

■製作スタッフ

製作(監督・脚本)……福井康雄 美 術……小倉宏昌
製作進行……本田 豊 録 音……アオイスタジオ
演 出……森田浩光 現 像……ソニー・PCL
作 画……柳瀬譲二
……………吉崎 誠

■キャスト

ミツコ……堀江美都子
マサオ……塩沢兼人
ミツコの父……小川真司
ミツコの母……上村典子
マサオの父……大竹 宏
マサオの母……藤田淑子
他

財団法人 東京都同和事業促進協会 TEL.03-3845-6991
当協会は、東京都の外郭団体で同和問題を中心に広く
人権問題を解決するため、各種事業をおこなっています。

お求めは……

24-04618 '91/1 ㊤

㊤ '94/7

学研

情報メディア事業部

〒146 東京都大田区仲池上1-17-15
☎(03)3726-8558